

# Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 6

平成27年3月18日

編集・発行

学校支援課 広報担当

## 次年度に向けた準備を

本年度も残すところ、あとわずかとなりました。

各学校におかれましては、重点として示しました「学校ぐるみの組織的な取組による授業力の向上」「自律性と社会性を育む生徒指導の推進」「自立と社会参加の力を育む特別支援教育の推進」の三つについて一体的に取り組み、教育活動の充実に努めていただきましたことに、深く感謝申し上げます。



計画訪問につきましては、全ての学級の授業を参観させていただく形態に変更してから2巡目の訪問となりました。本年度は、市内の幼稚園(6園)、奇数学番の小中学校(80校)、特別支援学校(1校)、を計画訪問させていただきました。

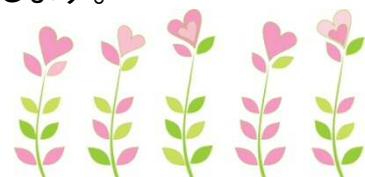
どの学校園におかれましても、学校の様々な実態に応じて、組織的な取組が進められ、一人一人の教員の皆様が課題意識をもって授業を行っている姿を数多く拝見することができ、新潟市の学力の向上と深く結び付いていることを実感しております。

さて、来年度からは新潟市教育ビジョン第3期実施計画が新しく始まります。

このスタートに合わせ、「学習指導要領」と新潟市教育ビジョン第3期実施計画に基づいて行われる基本政策を踏まえ、その実現を目指して、「平成27・28年度新潟市の学校教育」を設定し、先般、皆様に配付いたしました。

「学校教育の重点」及び「学校教育評価の観点」を具体的に示してあります。より一層充実した教育活動が行われるように、成果と課題を明確にするとともに、この「新潟市の学校教育」をご確認いただき、次年度の各学校園の様々な計画、評価などをお考えいただきたいと思います。

よろしく申し上げます。



平成27・28年度  
新潟市の学校教育  
新潟市教育委員会

この「新潟市の学校教育」は、「学習指導要領」の趣旨と「新潟市教育ビジョン第3期実施計画」の基本施策を踏まえ、その実現を目指して設定しました。

### 学校教育の重点

- 組織的な取組による授業力の向上**  
日々の授業で児童生徒が「何を学んでいるのか」「どのように学んでいるのか」「何が分かり、できるようになったのか」を自覚できることが、確かな学力の向上につながります。そのために、「学習課題」と「まとめ」のある、児童生徒が主体的・協働的に学ぶ授業（アクティブ・ラーニング）を推進します。そして、目指す授業を実現するために、日々の授業と校内研修とを連動させ、全教職員及び学校に関わる人々が協働性・協働性を発揮することのできる学校を目指します。
- 自律性と社会性を育む生徒指導の推進**  
児童生徒一人一人が社会の一員であることを自覚し、他者との望ましい関係を築き、高みを求めて「自立」する姿の実現を目指し、教育活動全体を通じて、「自律性」(めあてをもち、自己決定し、自主的に行動する)と、「社会性」(互いに認め合い、支え合い、高め合う)を育む生徒指導を推進します。そのために、「授業づくりと生徒指導の一体化」や「事前・事後の活動を重視した特別活動」を中核として、「子どもを伸ばす4つの視点」から児童生徒の実態に即した具体的な手立てを位置付け、組織的・計画的な指導に取り組みます。
- 自立と社会参加の力を育む特別支援教育の推進**  
共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育システム構築のために、特別支援教育を充実させます。限られたある児童生徒がその能力や可能性を最大限に発揮し、自立と社会参加することができるように、一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」等の作成を通じて「合理的配慮」を提供し、適切な指導及び支援を行うことを推進します。そのために、教職員の専門性を高める校内研修に取り組み、保護者やサポートセンターなど関係機関との連携を進めます。

1

## 学校独自にキャリア教育を「デザイン」していきましょう！

キャリア教育では、目の前の子どもの実態などから、その学校ならではの計画を立てることが大切です。子どもに付けたい力を明らかにし、その観点から今ある教育活動を見直し、つなぐことで、効果的な計画を立てることができます。

以下、本年度、子どもにとって実り多い学びとなるキャリア教育を進めた学校の実践を紹介します。

### <山の下小学校>

6年生の子どもは「〇〇になりたい」という職業に対する憧れをもっています。こうした憧れを基盤にキャリア教育を実践しました。

自らの心情にしたがって生きる人との出会いが、子ども一人一人に生き方を考えさせるきっかけになると考えたからです。

ゲストティーチャーとの交流が、子どもたちの職業に対する考えを変えていきます。努力や根性、思いやりといった、その人物を支えてきた価値、そしてその人の信念が、子どもの心を揺り動かしました。

その一方で、子どもは人物と自分を比べ、現在の自分の姿を見つめました。「ありたい自分」を実現するためには、人物のよさを学ぶとともに、今できることを実践することの必要性に気付きました。こうした意識の広がりが、最高学年としての取組、青少年赤十字の一員としての活動など、日々の自分の言動を変えるきっかけをつくっていきました。



### <早通小学校>

昨年度の新潟市児童生活意識調査で、当校の児童は、将来の夢や就きたい職業についての見通しがもてていないだけでなく、自己肯定感も低いことが分かりました。夢に向かって、生き生きと学校生活を送り、学びを深め、自分のよさに気付いてほしいという学校共通の願いを達成するために実践をしました。



どのような力を付けたいのか、どのような手立てが有効なのかを校内で話し合い、5年生の子どもに「自分の未来を見つめよう」というテーマで指導に当たりました。

子どもたちは、新鮮な気持ちで自分自身について考えていくことができました。そして、「自分の可能性」「自分のよさ」「自分の興味・関心」などに気付き、自分自身の内に隠れていた思いに驚きを感じるほどの成果がありました。

今後は、このような「自分」に対する気付きを素直に受け止め、よりよい自分づくりを進めていこうという意欲を高める指導を継続していきたいと考えています。

## ＜白南中学校＞

「働くとはどういうことか」をテーマとして2年生のキャリア教育を行いました。5月に職業適性検査とオリエンテーションを行った後、班で「働くとはどういうことか」のイメージマップを作成しました。

6月に3名の働く方を招き、仕事の喜びや苦勞等の話を聞きました。7月は新潟ジョブワールドに参加して専門学校体験をした後、2日間の職場体験を行いました。9月は、「働くことに対する考えの変化」をワールドカフェ方式でまとめ、その後、各自の未来計画をつくりました。

生徒たちは、働くことへの考えを深め、各自の課題として捉えて、進路について真剣に考えようとする姿勢が見られるようになりました。

今後も、生徒に問題意識をもたせ、学習活動に生かしていくように働きかけていきたいと思えます。



【キャリア教育で付けたい力】



【年間の大まかな流れ】

ここに紹介した3つの学校に共通する手順が次のことです。実践を行う際のチェック項目として参考にしてください。

- ① 自校の子どもの課題、目指す子どもの姿を出し合う。
- ② 基礎的・汎用的能力※の視点から、付けたい力を具体的に設定する。
- ③ ②を行う教育活動を見出し、それぞれを関連付ける。
- ④ 総合的な学習の時間など核になる教育活動を設定し、年間の大まかな流れをつくる。
- ⑤ ゲストティーチャーとの交流では、その前後の活動も充実させる。

今回3つの学校とも、NPO団体「みらいずworks」の方々からの支援も得ました。例えば、上述の白南中の実践にあるように、①～④において、ファシリテーショングラフィックの手法を用いて話し合いの内容の視覚化を図り、目指す方向を共通理解することも有用です。

キャリア教育では、目の前の子どもの実態などから、重点を明確にして計画を立てることが大切です。子どもに付けたい力を明らかにし、その観点から今ある教育活動を見直し、つなぐことで、効果的な計画を立てることができます。

学校独自にキャリア教育を「デザイン」することが、今、求められています。

未来を生きる子どものため、キャリア教育の一層の充実をお願いします。

※基礎的・汎用的能力:「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成されます。